

北の丸公園の生いたち

■北の丸公園は旧江戸城北の丸に位置し、現在は皇居外苑の一部として環境省が管理しています。

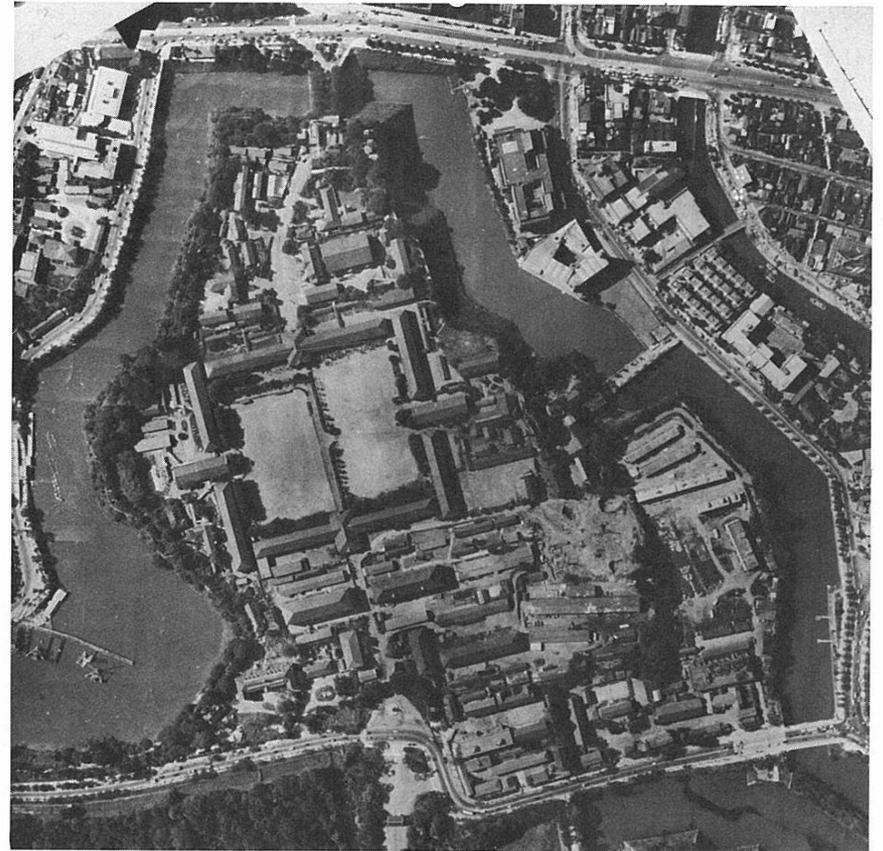
■八代将軍徳川吉宗、九代将軍徳川家重の時代には田安德川家、清水徳川家の屋敷が置かれており、現在も残されている門が家名の由来です。



■明治時代には近衛師団司令部や兵舎が置かれ、昭和30年代までその跡地が残されていました。

■北の丸公園は昭和38年に、隣接する皇居との一体性を持った森林公園として整備が始まり、昭和44年4月に開園しました。

■面積は19.3haです。



整備前の北の丸地区の状況

国立近代美術館工芸館として北の丸公園内で公開されている旧近衛師団司令部庁舎

自然環境の特徴

(平成20年7月～平成21年7月の調査結果より)

植物

■現在743種が確認されています。

■確認種には植栽された種が多いですが、チゴユリ、エゾタンポポなど公園整備時に苗木の土とともに入ったと思われる種もあります。

■キンラン、ギンラン、オドリコソウなど、都市近郊では減少しつつある種も点在するなど特異な植物相を示しています。

■濠に面した草土手には江戸城の時代から存在していたと思われる植物も見られます。

■都心において都市近郊の植物が見られる貴重な場所といえます。



キンラン



オドリコソウ



ニリンソウ



ヤブカンゾウ

キノコ

- 現在206種が確認されています。
- 都区内の公園としては種類が多く、キヌガサタケのような珍しい種類が多いのが特徴です。

動物

- 現在、鳥類57種、昆虫類は資料も合わせ545種、爬虫類8種、両生類3種、陸生貝類17種などが確認されています。
- 鳥類は越冬地あるいは春や秋の渡りの中継地として利用しており、ミゾゴイなどの珍しい種も確認されました。
- 昆虫では花などにチョウが多く森林性のクワガタなども見られますが、歩行移動するオサムシ類などが少ないのが特徴です。



キヌガサタケ



テングツルタケ



ミゾゴイ



キビタキ



ノギリクワガタ



ナミアゲハ 6

落葉や枯木などの利用

■北の丸公園では除草剤などは一切使わず、落ち葉や刈草、枯木は生きものの大切な資源として利用しています。

■園路などの落葉は林内に戻したり1箇所に集めて腐葉土として利用します。落葉を集めた場所ではキノコがたくさん発生します。

■枯木や倒木は林内に留め、小動物の餌や隠れ場所として利用しています。

■倒木などにはクワガタムシやカミキリムシの幼虫が潜み、キノコの発生場所にもなっています。



落葉溜め



倒木の集積



朽木から発生したウチワタケ



朽木に産卵する
ナガゴマフカミキリ

環境にやさしい施設の整備

■北の丸公園では低炭素型社会の推進に貢献するため、様々な省エネ設備を導入しています。

■園路などの外灯はLED照明で従来型に比べ消費電力は約半分です。また、駐車場の夜間照明は太陽光発電です。

■休憩所には太陽光発電設備を導入するとともに、複層ガラス、GHP空調（電力需給に左右されません）を採用しています。

■自動販売機も省エネ型です。

■中央の樹林地では、気象庁気象観測施設（工事中）が整備されています。



LED外灯



駐車場太陽光発電照明



北の丸休憩所全景



休憩所屋上太陽光パネル

人工浮島による水辺生物の環境造り

■池の最下流部には人工浮島が設置されており湿性植物や水辺の動物の生育・生息地となっています。

■人工浮島はもともとは水質浄化のための実験施設でしたが水辺の生きものの良い環境になっています。

■浮島は水没型、露出型があり、それぞれにハナショウブ、カキツバタ、マコモ、ヨシなどを植栽し、生育状況を観測しています。

■このような環境がカモやトンボの格好の生息地となっており、カルガモやカイツブリが繁殖地として利用しています。

■また絶滅が心配され、環境省のレッドリストで絶滅危惧種にあげられているベニイトトンボも確認されています。



人工浮島設置状況



カイツブリの巣



カルガモ



ベニイトトンボ